

*A Happy New Year!*  
*2009*

新年のお慶びを申し上げます

大阪国際交流センター・ラジオクラブ  
Osaka International House Radio Club

## 第36回SEANETコンベンション参加記 (速報)

\*\*\* 2008年度は東マレーシアのコタキナバルで開催 \*\*\*

J13ZAG 荒川 泰蔵



大阪 (関西) で我々が主催した第34回SEANETコンベンションから2年目、第36回SEANETコンベンションは、2008年11月20日から4日間、ボルネオ島はサバ州のコタキナバル (Kota Kinabalu) で開催された。ここコタキナバルでの開催は2001年に続いて7年ぶりである。今回はBARC (Borneo Amateur Radio Club) が主催したが、7年前の主催クラブSARS (Sabah Amateur Radio Society) も協力していた。

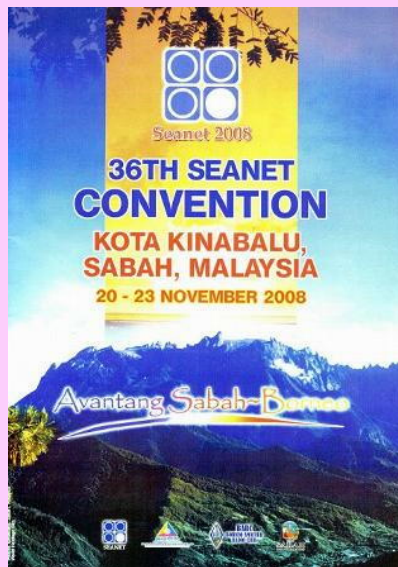
私は関西国際空港からコタキナバルまでの直行便MH-51 (週2便)に乗るため2日前に出かけた。直行便だと約5時間のフライトで午前11時10分に出発して午後3時20分 (現地時間)に到着するが、JE3BEQ宮本さんは翌日のクアラルンプール経由便MH-53でコタキナバルに到着したのは深夜になっらしい。関西国際空港では偶然JA5TFF藤原ご夫妻とJA5AIL 畠山さんに出会いコタキナバルまで同行することになった。今回は事前に9M6DXX, Steveから頼まれた東京ハイパワー製のリアアンプのボードを持参したため、彼が空港まで迎えに来てくれた。コタキナバル国際空港は市街地から車で20分とかならぬ海岸沿いにあり 拡張工事や周辺の道路の整備の最中であったが、新しく建設するターミナルビルは格安便の運行で知られるAir Asia専用のターミナルビルとのことである。

コンベンション開催日より2日早く着いたので特別局9M4SEAの設置や、参加者の空港への出向かえなどに立ち会うことができた。前日に9階の1室 (916号室)にセットアップした特別局9M4SEAは9W6KOM, Khumaini達がそこに寝泊りして参加者がいつでも運用できるよう便宜を計ってくれた。設備は9M6XRO (GM300K), JohnのFT-920とC-2KLで、アンテナは9M6DXX (G4JVG), Steve達がバッテリーのバーチカルアンテナをホテルの屋上に設置したものである。特別局のプリフェックス9M4は西マレーシアでも使われるためコールサインだけでエンティティはわからないことになるが、今回のQSLマネジャーは9M6TW, Jamesである。今回のCommitteeの36人は顔写真とともに役割を記してプログラムに掲載されているが、そのほとんどの人は若い現役の人達で、この4日間は仕事を休んでの参加だと話していた。

初日(11月20日・木曜日)はメイン会場であるHotel Promenadeのロビーに、午前中から受付のデスクが設置され、前日までに到着していた参加者の受付を始めたが、夕刻までには参加者の大半が到着し登録を終えた。再会を喜ぶ人や新しい人達を紹介し挨拶する人でロビーが賑わった。この日の歓迎会 (Fellowship Dinner)はバスなど数台の車に分乗して近くのヨットクラブ (Kinabalu Yacht Club)に移動して行われた。ホテルのボールルームが工事中で使えないこともあるが、ホテルは食事や飲み物も高いからと地元の人が耳元でささやいてくれた。日が暮れていて全体が見渡せないが、クラブハウスのテラスや少し離れた東屋や庭 (屋外)にテーブルが並べられ、参加者が思い思いに席について歓談できるようになっていた。食事はbuffetスタイルでソフトドリンクは自由であったが、ビールは東屋に作られたバーで有料であった。地元の人達が地酒だと振舞ってくれた飲み物は米から作ったといっていたが、甘みが強く日本の酒よりはアルコール度が低いように思われた。

今回の参加者は事前に登録した人達に加え、地元のHAMやゲストも加わって総勢200人程であったが、日本からの参加は14名であった。他に、マレーシアに駐在中の9M2/JA1GQC高崎さんが仕事でコタキナバルへ出張中と9M4SEAのシャックに顔を出し、フィリピンからJA2KLT/4F7/1丸山さんが参加された。高崎さんはクアラルンプールにある日本クラブのクラブ局9M2JKLのメンバーとして活躍中であるが、9G5DXなどの運用でも知られている。また丸山さんも多くのエンティティからQRVしておられるが、近くコタキナバルに移住するとのことである。既に9M6KLTの免許を得たとのことであった。2年前にこのコンベンションを主催した大阪からの参加がJE3BEQ宮本さんと私の2人だけとは少々淋しかった。

2日目(11月21日・金曜日)は参加者全員で記念撮影の後、数台のバスや自家用車に分乗して市外の観光に出かけた。Lok Kawiの野生動物園 (Wildlife Park)を見学の後、途中でbuffetスタイルの昼食を済ませ、Klias Proboscis Resort (Mo



nkey Top Safari)へ激しいイスコールの中を2時間余り進んだ。リゾートは川辺にありしばらく休憩の後数隻のボートに分乗して野生のサルの観察と、日が暮れてからは蛍の鑑賞に出かけた。リゾートでは並行して夕食の準備が進み2匹の子羊

の丸焼きが香ばしい匂いを漂わせていた。BARCの会長、9M6TW, Jamesの挨拶の後、地元Kota Kliasの名士であり運輸副大臣を務める国会議員、Datuk Seri Panglima Haji Lajim Haji Ukin氏の歓迎の挨拶があった。参加者は思い思いのテーブルで民族舞踊を鑑賞しながら食事を楽しんだが、このような雰囲気の中で国籍や民族の違いを超えた共感が得られ、賑やかな会話やダンスを通して国際親善・友好が図れているのは素晴らしいことである。

**3日目**(11月22日・土曜日) 市内観光に出かけるためにHotel Promenadeのロビーに集まっている時、2階で開かれているアマチュア無線のワークショップに気づいた。これはMCMC (Malaysian Communication and Multimedia Commission - マレーシア語の略称はSKMM) が主催するRadio Amateur Workshop 2008であったが、12月17日に行われるアマチュア無線の試験 (RAE) に備えてのようであった。BARC (Borneo Amateur Radio Club) が協力していたが、受講料はRM10 (約300円) とのことで、50名以上の受講者が講義を熱心に聞き入っていた。講義は「Introduction to Amateur Radio 2008」、「Electronics Fundamentals」、「Practical Guide to Amateur Radio」、「Technical Specification for Amateur Radio Equipment」、「Guideline on the Allocation of Call Sign to the Amateur Radio Service」と幅広い内容で、午前8時から午後5時までの長時間の講義であった。中国でも参考になるだろうとBA4EH, Chenさんに知らせ、短時間ではあったが見学してもらった。

その後、希望者のみが2台のバスに分乗して市内観光に出かけ、コタキナバルで最も高い懸架式のビルディング (32階建の官庁)、2,000人を収容できる回教モスク、大きな立像が目目を引く仏教寺院、ロングハウスの展示がある民族博物館などを見学した。このコースは前回 (2001年) の観光コースと同じであったが、この辺りは変わってはいなく懐かしい思いで見学した。夜は隣にあるTang Dynasty Hotelで晩餐会 (Gala Dinner) が開かれた。民族衣装、正装、カジュアルと思いきいの服装での参加者が席についた。主催者代表やMCMCの9M2RT, Ahmad Razif Ramli氏などのゲストの挨拶に続き開会宣言と共に、9M6GY, Godfreyが準備したスライドでSEANETの歴史を紹介して会場を盛り上げた。スライドには2006年の大阪でのコンベンションの写真も出てきた。舞台上に繰り広げられる民族舞踊を鑑賞しながら夕食が始まったが、回教国とあってアルコール類は出されなかった。食事をしながらの歓談も一段落した頃SEANETコンテストの入賞者の表彰式が行われ、シングルオペ部門で1位になったHS0ZEE, Sheridan他が賞状を受け取った。続いての恒例の国別パフォーマンスは司会をV8A00, Saifuddinに引継いだ。日本の番では日本人全員が壇上に上がり、J1E3BEQ宮本さんの指揮で、「浜辺の歌」など3曲を合唱した。アンプの不調で準備した伴奏が流れなかったが、9M2KN, Dr. Kenがギターを片手に壇上に上がり演奏で協力してくれた。今回特に目立ったのは隣国ブルネイの民族舞踊であったが、60人近い参加者を引き連れての参加は、ここだけではなく各場面で今回のコンベンションをサポートしているという印象であった。

**最終日** (11月23日・日曜日) は恒例の総会 (Plenary Meeting) では9M6DXX (G4JVG), Steveが3B7C, St. BrandonのDXペディションを、HS0ZEU (DL2EBR), ManfredがTI9KK, Cocos Is.のDXペディションをスライドで報告した。3B7Cに参加したG3NUG, Neville 及びMD0CCE (N2BB), Bobも会場に顔を出していた。2009年の開催地、韓国のソウルをHL1KDW, Chaeさんが紹介、2009年10月23日 (金) から27日 (火) と週末を



挟んでの5日間で、ソウルからは遠いが半島の東側、北朝鮮との国境近くにあるGangwon Provinceの Mt. Sorakの紅葉を参加者に是非見て貰いたいという思いからとのことであった。Chaeさんは日本から出来るだけ沢山の人が参加して欲しいと願っている。引き続いて2010年度の開催地を中国の上海に決めた。ブルネイやオーストラリアも開催に手を上げたが、中国は2006年の大阪でのコンベンションから立候補しており、今回は北京のBG1DO、Liuさんと上海のBA4EH、Chenさんを中心に、通訳や報道関係者を連れて来るなど大した熱の入れ方であった。今回はまだ一度も開催したことのない国を優先でという流れのなかで中国に決まったものである。SEA NETコンベンションの主催がいかに大変であるかは我々も大阪でのコンベンションで経験したことであり、一候補地がなく開催が出来なかった時代に比べると、各国で招きたいという動きが出てきたことは嬉しいことである。また、午後からは9M4SEAのリグを撤去した9階の916号室で、JA1BRK米村さん、DU1EV, Eddie, JA1RJU小笠原さんの3人のVEIによるFC Cの試験が行われ数人が受験した。これは昨年米村さんが提案していたことであったが、多分SEANETコンベンションでは初めての試みであったと思う。私は英国から帰国した1998年の翌年から毎年参加し、今年で10年目になるが、初期のSEA NETメンバーが次々に亡くなる淋しさの中で、若い人達の参加による世代の変化を感じた。宮本さんが名付けられたSEA NETスピリットである草の根での国際交流、国際親善が脈々と受け継がれている。



Post-Convention Activity として Labuan島 (OTA# OC-133) での運用が計画されていたが、私はそれには参加せず帰途クアラレンプルに立ち寄り、11月26日に日本クラブのクラブ局9M2JKLを訪ねてゲストオペをさせて頂いた。コタキナバルでお会いした9M2/JA1GQC高崎さんの他、9M2AC (JL2RAA) 齋藤さんや9M2BZ鶴岡さんにもお目にかかり、日本クラブの日本レストランで夕食をご馳走になったあと、市内から初めて乗る直行電車で空港(KLIA)に向かった。

Osaka International House  
Radio Club  
JJ3ZAG

Rollcall  
0000 UTC on Saturday  
21.360 MHz

Monthly meeting  
1800 JST on 2nd Friday  
at Osaka International House

URL: <http://www.jj3zag.net/>

e-mail: [jj3zag@jj3zag.net](mailto:jj3zag@jj3zag.net)